

3 宮戸4遺跡のTピットについて（続）

宮戸4遺跡では、3か年の調査で、25基のTピットが検出された。地区別では、S地点10基（TP-1～4、19～24）、斜面部分14基（TP-5～18）、水田部分1基（TP-25）である。昨年度の斜面部分に引き続き、今年度は主にS地点のTピットについて考察する。

Tピットの立地を見ると、標高25.0mより高い部分に7基、標高23.5mより低い部分に3基検出されている。調査区中央の東西方向に走る沢地形の高位部分では検出されなかった。南側の沢沿いの斜面に設けられたTP-1～4、北東側へ突き出した尾根上に設けられたTP-20・21という立地の異なる2つの配列が見られる。いずれも長軸方向は沢の低位部分へ向かっており、台地上よりイモッペ川へ降りるエゾシカの動きを想定して構築されたと推測される。

昨年度同様に、底面の長軸長／短軸長の比による形態分類を試みた。長短比15より大きいものをA型として、以下5毎にB型、C型、D型に分類した。D型については、杭穴の有無によりD1型、D2型に細分した（北埋調報168）。斜面部分がD1型またはA型が主体であるのに対して、S地点はB型とC型が多い。ただし、長短比によっては、形態の異なるTピットが同じ分類になるという結果も見られる（TP-22とTP-24など）。例えば、底面が平坦なものと傾斜するものでは、実際の長さがほぼ同じでも平面図上の計測値に差が出てくる。オーバーハングについても、これを最初の掘り込み時のものか、あるいは再利用の結果（掘り直し）と捉えるかにより計測値は変わってくる。以上の点から、長短比による分類は、機械的に数値で分けてしまう危険性を含むことから、これを採用する際は1基それぞれの形状について注意し、副次的な基準を加える必要があると考える。

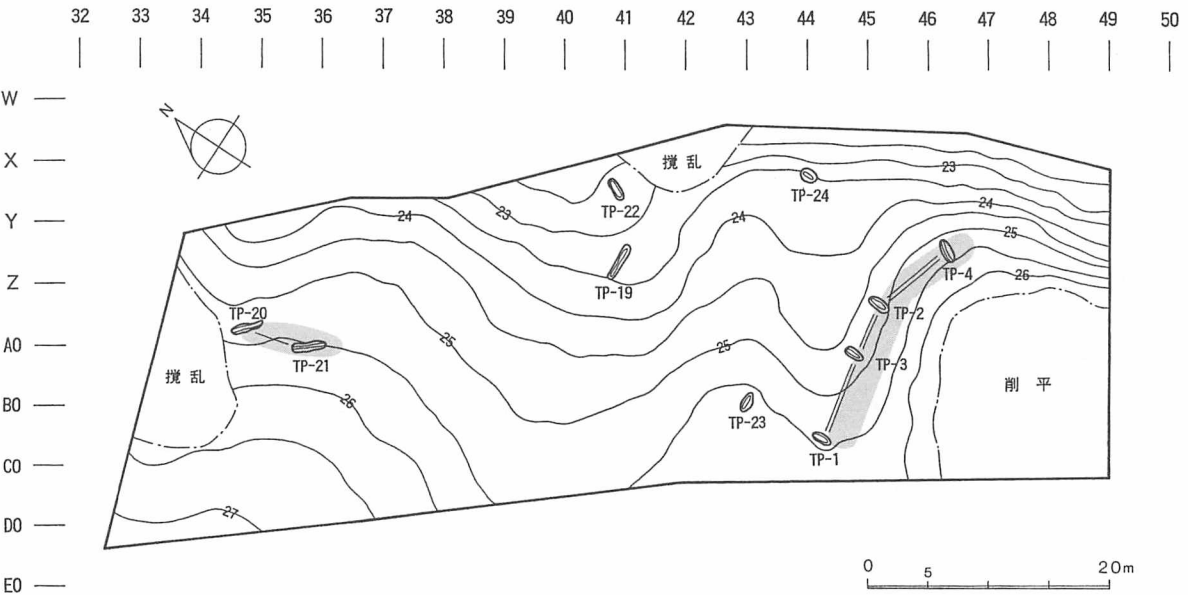
時期を推定する手がかりとなる、他遺構との切り合いや、底部よりの遺物の出土などは見られなかった。そこで昨年度と同じく、人間の居住域の選地とエゾシカの行動圏という観点から、構築時期を考える。これまで主流となってきた縄文時代中期後半～後期初頭（森田・遠藤 1984ほか）という見解に立脚するならば、イモッペ川流域においては、対岸の米原4遺跡B地区で柏木川式期の集落が営まれる頃から、宮戸4遺跡S地点でタブコブ式期の土器片囲い炉が作られるまでの期間が相当する。また、TP-19～22の底部およびV層より採取した土壌を用いて花粉分析と植物珪酸体分析を行い、Tピット構築時の古植生を復元した。①遺跡周辺はイネ科植物を主体とする草本類が多く生育する、開けた明るい環境であった、②斜面上はやや乾いた、斜面下方はヨシ属が生育するような湿潤な場所であった、という結果が得られた。このことから、Tピットが草本類で地面を覆われた、足元の見通しが悪い場所を選んで構築された可能性が指摘されている（第Ⅵ章第2節参照）。

発掘調査で得られた知見と自然科学的分析結果を併せて考察すると、S地点でも中期後半の柏木川式に相当する土器は出土しており、米原4遺跡B地区の集落の人々が対岸においても活動していた可能性は高い。この時期、イモッペ川の両岸は人間の手による自然環境への働きかけ（樹木の伐採、住居の構築など）によって、見通しの良い開けた場所になっていたと思われる。この段階でエゾシカが近づくことがあったかもしれないが、人間を警戒する本能が強く、稀であったろう。柏木川式期の集落が廃絶して荒開地となり、人間の痕跡が消えた頃に、エゾシカが頻繁に現れるようになったと考えられる。あくまで推測の域を出ないが、北筒式（トコロ6類）～余市式（伊達山式）期に、やや離れた米原3遺跡で集落を営んでいた人々が、Tピット構築の主たる担い手であったと考えている。本遺跡の調査は平成15年度以降も継続の予定であり、次年度の報告では、宮戸3遺跡・米原4遺跡も併せてイモッペ川流域の遺跡群全体のTピットについて考察したい。（芝田）

表Ⅶ－３－１　Ｔピット属性一覧表

遺構名	平面形状	上端規模		下端規模		深さ(m)	長短比	横断面形状	縦断面形状	底面形状	杭穴	分類
		長軸(m)	短軸(m)	長軸(m)	短軸(m)							
ＴＰ－１	楕円形	1.95	0.82	1.93	0.19	1.11	10.16	Ｙ字型	オーバーハング	傾斜する	無 し	Ｂ型
ＴＰ－２	楕円形	1.86	0.95	1.97	0.33	1.70	5.97	Ｕ字型	オーバーハング	中央が窪む	無 し	Ｃ型
ＴＰ－３	楕円形	1.71	0.72	1.99	0.23	1.72	8.65	Ｙ字型	オーバーハング	傾斜する	無 し	Ｃ型
ＴＰ－４	楕円形	1.73	0.85	1.80	0.14	1.60	12.86	Ｙ字型	オーバーハング	傾斜する	無 し	Ｂ型
ＴＰ－５	楕円形	1.57	0.83	1.07	0.21	1.50	5.10	Ｖ字型	袋 状	中央が窪む	無 し	Ｄ１型
ＴＰ－６	楕円形	1.81	1.12	1.65	0.40	1.17	4.13	Ｕ字型	オーバーハング	ほぼ平坦	２ヶ所	Ｄ２型
ＴＰ－７	楕円形	1.49	0.86	1.12	0.25	1.33	4.48	Ｙ字型	袋 状	傾斜する	無 し	Ｄ１型
ＴＰ－８	楕円形	1.54	0.85	1.22	0.24	1.30	5.08	Ｙ字型	袋 状	傾斜する	無 し	Ｄ１型
ＴＰ－９	楕円形	(1.39)	0.91	1.17	0.26	1.40	4.50	Ｙ字型	袋 状	傾斜する	無 し	Ｄ１型
ＴＰ－１０	楕円形	1.56	0.93	1.10	0.25	1.40	4.40	Ｖ字型	袋 状	中央が窪む	無 し	Ｄ１型
ＴＰ－１１	長楕円形	3.57	0.70	4.36	0.28	1.13	15.57	Ｙ字型	著しくオーバーハング	傾斜する	無 し	Ａ型
ＴＰ－１２	長楕円形	(2.95)	0.68	2.45	0.14	1.20	17.50	Ｙ字型	中端でオーバーハング	２段に傾斜する	無 し	Ａ型
ＴＰ－１３	長楕円形	2.60	0.93	2.17	0.19	1.14	11.42	Ｖ字型	船底状	ほぼ平坦	無 し	Ｂ型
ＴＰ－１４	長楕円形	2.65	0.72	2.31	0.10	1.12	23.10	Ｙ字型	オーバーハング	ほぼ平坦	無 し	Ａ型
ＴＰ－１５	長楕円形	2.07	0.75	1.93	0.17	0.83	11.35	Ｖ字型	オーバーハング	傾斜する	無 し	Ｂ型
ＴＰ－１６	溝 状	3.40	0.47	3.04	0.18	0.91	16.89	Ｉ字型	船底状	ほぼ平坦	無 し	Ａ型
ＴＰ－１７	長楕円形	2.54	(0.73)	2.75	0.23	1.13	11.96	Ｖ字型	オーバーハング	傾斜する	無 し	Ｂ型
ＴＰ－１９	長楕円形	3.00	0.66	—	—	0.92	—	Ｙ字型	不 明	不 明	不 明	Ａ型？
ＴＰ－２０	長楕円形	2.33	0.72	2.05	(0.18)	1.32	11.39	Ｙ字型	袋 状	傾斜する	無 し	Ｂ型
ＴＰ－２１	長楕円形	3.27	0.90	3.38	(0.22)	1.12	15.36	Ｙ字型	オーバーハング	ほぼ平坦	無 し	Ａ型
ＴＰ－２２	楕円形	(1.80)	0.70	1.47	0.35	0.79	4.20	Ｕ字型	袋 状	ほぼ平坦	無 し	Ｄ１型
ＴＰ－２３	楕円形	1.40	0.65	1.09	0.19	0.68	5.74	Ｙ字型	袋 状	傾斜する	無 し	Ｃ型
ＴＰ－２４	円 形	1.25	0.98	0.73	0.24	1.06	3.04	Ｙ字型	袋 状	ほぼ平坦	無 し	Ｄ１型
ＴＰ－２５	楕円形	1.80	0.60	1.66	0.51	0.99	3.25	Ｕ字型	中端でオーバーハング	傾斜する	無 し	Ｄ１型

※　ＴＰ－１８は町道米原２線下で検出され、未完掘。平成15年度以降報告予定。



図Ⅶ－３－１　Ｓ地点Ｔピット位置図